

平成 28 年 文京区議会  
子ども・子育て支援調査特別委員会  
視察報告書

○視察日程 平成 28 年 11 月 29 日 (火)

○視 察 先 小日向台町小学校 (文京区小日向 2-3-8)

○視察目的 放課後全児童向け事業に関する調査・研究

○視察参加者

【委 員】	委員長	萬 立 幹 夫
	副委員長	山 田 ひろこ
		田 中 香 澄
		森 守
		上 田 ゆきこ
		田 中 和 子
		板 倉 美千代
		海 津 敦 子
		金 子 てるよし
		松 下 純 子
		名 取 顕 一

【同 行】 教育推進部児童青少年課長 矢 島 孝 幸

【随 行】 区議会事務局長 佐 藤 正 子  
区議会事務局議会主査 吉 野 隆 久

# 小日向台町小学校（放課後全児童向け事業）

## 1 視察目的

平成 31 年度までに全小学校に設置予定の「放課後全児童向け事業」の先行例として、小日向台町小学校の「アクティ小日台」を視察した。

## 2 視察訪問先

小日向台町小学校

## 3 運営

小日向台町小学校 放課後全児童向け事業「アクティ小日台」運営委員会  
株式会社ベネッセスタイルケア（事務局）

## 4 説明者

小駒 俊 氏（小日向台町小学校長）

川口 慶真 氏（アクティ小日台運営委員会事務局主任）

## 5 事業概要

「放課後全児童向け事業」は、放課後や学校休業日に学校図書室や校庭などを活用して、遊びや体験、学びの活動を行い、友達と一緒に安全に過ごせる場所である。3階の図書室を中心に活動し、体育館や多目的室を利用できる場合もある。曜日、時間ごとに、折り紙や工作、将棋やトランプ、屋外でのサッカーやドッジボールなど遊びや体験の提案をするが、参加は自由である。対象児童は、小日向台町小学校に通う1～6年生の全ての児童。開催日は月曜日から金曜日で、土曜・日曜・祝日・年末年始は休み。利用時間は放課後の17時までで、夏休みなどの学校休業中は、お弁当や水筒を持参して9時から17時までとなる。利用料は無料で、「スポーツ安全保険」年間掛金800円と材料費等の実費負担のみ必要である。



工作「マカロニ de クリスマスリース」



図書室での活動を視察



工作「編みもの・マフラー」

## 6 事業の運営について

### (1) 小駒校長より

「開設して2年目だが、すぐに変化が出ている。体力測定の結果に変化が出て、特にソフトボール投げは平均を大きく超えて向上している。

ベネッセスタイルケア責任者の川口主任は順天堂大学のスポーツ系出身で、大学とも連携しながら遊びを工夫している。体力は、イコール学びの力、創る力である。」



小駒 俊 校長

### (2) 登録者数

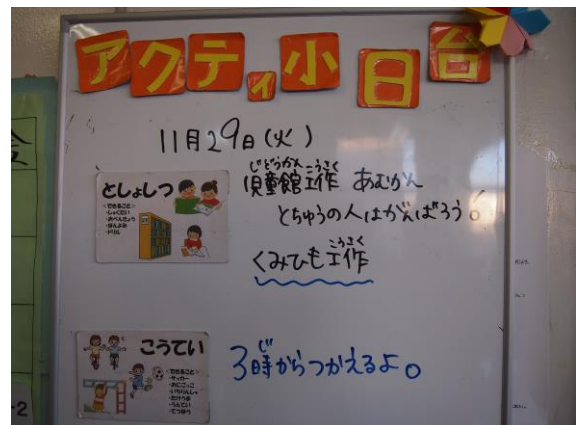
全校児童（351人）の約78%が登録し、特別支援学級は全員登録している。一日平均70人程度で、3・4年生が一番多い。

### (3) 運営委員会

毎月1回、学校、事業者のベネッセスタイルケア、児童館、育成室、PTA、文京区で行っている。

### (4) 運営スタッフ

毎日7人配置している。常勤が2人、非常勤が5人（ベネッセスタイルケア社員3人、パート2人）で、その他にボランティアも受け入れている。



### (5) 連携

児童館、育成室との連携や、教育センターとも連携し、PTAも加わって、飛行機づくりなどの科学教室を行っている。

「おせっかい精神」の下、保護者とも密に連絡を取っている。



# アクティ小日台だより - 冬休み特別号 -

No.19 12月号 2016年11月29日発行

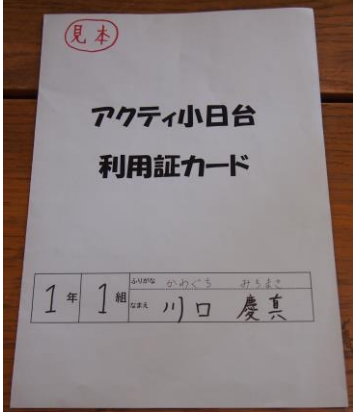
ほやほや一年の締めくくりの月となりました。今年も子どもたちは、はじける笑顔で元気に成長を遂げています。今年度で2年となるアクティ小日台ですが、11月はPTAとの合同企画であった「移動科学教室」小日台マナーアップも、無事終了することができました。今年度、江戸水神楽が最後となりました。今回は公演という形で、芸術鑑賞の企画をしております。また、その後は楽師の演奏を聴いて、楽師に挨拶できる時間を準備しております。音楽家の皆さまもご鑑賞いただけます。さらに、工作もして発表しております。中には予約制のものもございますので、お子さまと一緒にのおたよりを兼ねながら、ご利用を検討いただければと思います。今月もみなさんのご利用を、スタッフ一丸お持ちしております。

**★冬休みのアクティの過ごし方★**  
 9:00 受付開始 10:00 学びの時間 11:00 自由遊び 12:00 休憩 13:00 読み聞かせ 14:00 昼食 15:00 学びの時間 16:00 自由遊び 17:00 イベント 終了

<2016年12月度カレンダー> アクティ小日台運営委員会

にち日	げつ月	か火	すい水	もく木	きん金	ど土
				12/1 かい	12/2 かい	12/3 やみ
				キャンドルづくり		
12/4 やみ	12/5 かい	12/6 かい	12/7 かい	12/8 かい	12/9 かい	12/10 やみ
				マカロニde 江戸水神楽 鑑賞会		
				キャンドルづくり		
12/11 やみ	12/12 かい	12/13 かい	12/14 かい	12/15 かい	12/16 かい	12/17 やみ
				マカロニde クリスマスリース		
				松ぼっくりツリーづくり		
				しめなわづくり		
12/18 やみ	12/19 かい	12/20 かい	12/21 かい	12/22 かい	12/23 やみ	12/24 やみ
				マカロニde クリスマスリース		
				クリスマス会		
				しめなわづくり		
12/25 やみ	12/26 かい	12/27 かい	12/28 かい	12/29 やみ	12/30 やみ	12/31 やみ
				パルーンアート		
				理科実験		

**★冬休みのイベント★**  
 12/1(水)～12/2(木)「キャンドルづくり」※小日向町児童館との合同イベントです。  
 お部屋に飾れるキャンドルをつくるよ！色を組み合わせたらカラフルなキャンドルもつくれるよ！  
 12/6(火)「江戸水神楽鑑賞会」  
 演奏や曲の演目をお楽しみください。その後も歌を歌っていただきます。保護者のみなさまもご鑑賞ください！  
 12/8(木)～12/9(金)「松ぼっくりツリーづくり」※小日向町児童館との合同イベントです。  
 12/15(水)～12/16(木)「マカロニdeクリスマスリース」  
 マカロニでクリスマスリースをつくるよ！工作が苦手でも簡単にできるリースが作れるよ！  
 12/21(水)～12/22(木)「しめなわづくり」※小日向町児童館との合同イベントです。  
 12/25(日)「パルーンアート」※小日向町児童館との合同イベントです。  
 12/26(月)「理科実験 色と光のふしぎ」※14:00～16:00を目標に開催予定です。  
 12/27(火)「理科実験 色と光のふしぎ」※14:00～16:00を目標に開催予定です。  
 アクティにある理科実験がはじりこやっています！今回は色と光のふしぎについて楽しく実験するよ！



## 児童・保護者向けのおたより「アクティ小日台だより」



川口運営委員会事務局主任（一番左）と視察参加者

# 視察成果のまとめ

---

## 萬立幹夫 委員長

「アクティ小日台」は、今年2年目です。登録した児童たちは、放課後、図書室で受付し様々な遊びや宿題をしていました。「運営委員会」に専門の事業者として「ベネッセスタイルケア」が参加し、遊びや教材などを含めて用意しています。視察日には、図書室で児童が指導員と一緒に毛糸の編み物やマフラー作り、器用に組みひも工作をしていました。校庭では、サッカーなどで元気に走り回っていました。

小日向台町小学校のように、学校敷地内に育成室、児童館が併設されている環境では、この事業と育成室、児童館の交流が可能です。全校にこれから設置するにあたり、これまでの地域やPTAなどの主体による運営か、アクティ小日台のような事業者の協力を得る運営か、体制の確保や経費など、総合的な検討が必要です。

また、この事業が、育成室、児童館とそれぞれ違う役割を担いながら、放課後の生活や安全と、のびのびと児童が過ごせる場所として存在することが大事だと思います。

---

## 山田ひろこ 副委員長

放課後全児童向け事業として、小学校の校庭や図書室、空き教室で子どもが過ごせることは、どんな他の場所よりも条件が整っているように見えた。子どもたちは外では自由に駆け回れ、中では手先を使った遊びなどについて指導してくれる人もいる。しかもお友達と一緒に学校の延長で。子どもたちがやりたいことをやって放課後を過ごす様子は自分の小学生時代と同じ光景。私の頃は、帰宅するとランドセルを放り投げて公園に遊びに行ったものだ。今の時代、公園で過ごすにもボール遊びは禁止され、しかも安全面においては、誘拐や不審者などの危険にさらされている。そんなことを全く心配することなく、放課後の学校は正しく子どもたちのためであった。地域の中にある学校で、さらに地域住民との交流活動を通し、子どもたちは心豊かに健やかに育つように思えた。

ただ一点、厚生労働省所管の学童保育と文部科学省所管の放課後全児童事業は、保育園（厚生労働省）と幼稚園（文部科学省）の関係のようであり、今後整理されていかねばならないだろうと思った。

---

---

## 田 中 香 澄

小学生の放課後居場所作りの安心安全をどう実現させるか。校内の育成室が利用者に喜ばれているように、育成室に通わない児童も学校施設を活用し、のびのびと遊びや学びを提供する放課後全児童向け事業を全校展開してほしいと提案してきた私にとって、本視察は期待以上で大変有意義だった。校長は、18年に他区で文科省が推進する本事業のスタートに携わり、外遊びが増えた等の効果もあり、文京区初の実施校に手を挙げた。課題は、学校、保護者等の協力や理解を得ること、放課後、学校を利用する各団体との調整、開放する教室確保等、苦労もある。様々な課題を克服し、事業者が児童館やPTAと新たなイベントをつくるなど、取組を発展させていることは素晴らしい。78%の高い登録率は納得で、特別支援の児童の参加率も高い。児童館職員の応援も日常的にあり、保護者との連携も細やかな配慮がゆき届き、カードにコメントを書くなどコミュニケーションを欠かさない。

全校展開を加速させるには、この工夫や実績を未実施校にもしっかりと共有することが重要である。所管課が未実施校の課題等にも丁寧に対応して着実に実施校を増やし、31年度の全校展開は共に喜び合いたい。

---

---

## 森 守

放課後全児童向け事業を実施している小日向台町小学校を視察した。本事業は民間事業者である㈱ベネッセスタイルケアが受託し行っている。区内で受託している団体は民間、地域団体など様々あるが、民間が行っている本事業を視察することで、今後の区内小学校の展開をどうしていくかの参考になるものとする。一番の注意点はメニュー、そして人の配置、最後に管理上の点である。メニューについては、遊びプログラム、学びプログラム、体験プログラム、その他の活動と豊富だ。参加は自由。そして利用料も年間800円の入会料と材料費の実費負担だけでよい。次にスタッフは常時7人で対応しており、人的配置も満足している。登録人数は約280人で、常時の児童は50～60人であることを考慮すると現行スタッフ人数でよいが、児童が多いときのスタッフ人数の増強は課題とする。最後に安全面については、小さなケガはスタッフが応急手当てをし保護者へ連絡する。また、体調が悪い時なども保護者への連絡を行っている。そして、毎日、利用証には利用日と退出時間、保護者のサインを記入することにより安全を確認しており安心だ。今後の事業展開を期待する。

---

---

## 上 田 ゆきこ

予算をあまりかけないランドセル置場の工夫など、ベネッセスタイルケアのノウハウが素晴らしく、職員さんも熱心で、これなら家族も安心できると感じた。校庭でも室内でも、程よく大人の目があるところで子どもたちが自由に仲良く遊び、学ぶことができている、楽しそうな笑顔が印象的であった。「まず、宿題を済ませる。」という習慣をつけるのもいい。図書室などは畳の部分もあり、友人と調べ物をするなど、子どもの意欲が引き出される環境が整っていると感じた。実際に小日向台町小学校児童には、外遊びによる運動能力向上など目に見える効果が出ており、夏休み等の内容も充実している。校長の説明によると、アクティ小日台があるから小日向台町小学校がいいという声もあるとか。文京区は平成31年度の区立小学校の全校全日実施を目指しているが、他校への展開を期待したい。

今後は、運営事業者の違いがどのくらい各校の放課後全児童向け事業の個性に影響するのかをアクティ根津との比較などで研究し、クオリティの維持に努められたい。また、選定においても仕様書を洗練させていかれたい。

---

---

## 田 中 和 子

小日向台町小学校には、育成室や児童館の利用者、アクティ小日台に登録する子どもたちが一緒に様々な活動に取り組めるという条件が揃っている。児童館からは、毎日1名の職員が遊びや工作の指導にアクティ小日台に入り、合同のイベントも行われ、人的交流が行われている。

訪問時、子どもたちは受付を兼ねる図書室でマフラー作りや編み物を楽しんでいた。廊下には、帰宅時刻ごとに分けられた敷物の上にランドセルやジャンパーなどが置かれていた。アクティ小日台の職員は午前中に放送室の片隅で午後の準備を行うとのこと。児童館にある工作室のように専門の部屋を持たず、「間借り」の感じである。より良い環境整備の必要を感じた。子どもたちにとって、アクティ小日台にあって児童館にないもの、その逆は何だろう？ 子どもたちは、アクティ小日台と児童館をどう使い分けているのか？ などなど、思いは巡った。

児童館も訪問して、子どもたちの様子や職員のお話を伺うことも必要である。

---

---

## 板 倉 美千代

放課後全児童のアクティ小日台は昨年4月に開設し、小日台小学校在校の78%、351人が登録していて、登録していない児童の理由は、育成室に在籍しているからとのこと。運営委員会はPTA・学校・地域・ベネッセスタイルケア等で構成され、青少年委員を委員長として毎月1回開催し、実際の見守りはベネッセスタイルケアスタッフが行っている。

いただいた資料中の「小日向台町児童館より」では、「児童館は、今年度もアクティ小日台で工作や遊びのコーナーを協力して、3名で担当していきたい」と紹介されていました。

私たちはこの間、児童館の職員が1人であっても全児童向け事業の方に毎日かかりきりになることで、児童館としての本来事業が果たせなくなるのではないかと懸念していました。現状を視察して、児童館・全児童の子どもたちが児童館職員と一緒に様々取り組むことは、子どもにとっては有益なことかもしれません。しかし、工作室をなくして第2育成室を造り、工作スペースはホールの一隅のわずかな場所となってしまう、全児童でしかのびのび取り組めない状況を作り、児童館機能を弱め、将来的には廃止の方向へというやり方であってはならないと思いました。

---

---

## 海 津 敦 子

運動が得意な子も得意でない子にも、体を動かす楽しみを届けたいとのスタッフが日本体育協会や順天堂大学等の専門家とつながり、また大学生にも参加してもらいながら、「楽しくなければ意味がない！」と子ども一人一人に寄り添った支援と運動に限らず、宿題の時間、工作や昔の楽器や遊びなど、多様なプログラムが提供されていました。

毎月発行する「アクティ小日台だより」は、見やすいレイアウトで活動の様子を分かりやすく伝えつつ、今後の予定の周知もされ、さらには、子どもたちが「また来たい」「参加して楽しかった」と帰路につけるように、その日の子どもの様子やヒヤリハットの出来事など、アクティのスタッフで日々共有し、翌日に備え、誰にとっても安全で楽しい放課後全児童を届ける努力をされていることがよく見えました。

ただし、子どもたちがランドセルを置く場所が廊下の床の上に置くしかなく、子どもの安全を考えると棚の設置や、スタッフが午前中から準備作業ができる固定の部屋など、ハード面を整備していく必要性を強く感じました。予算審査特別委員会では、学校快適化事業を行う際には、放課後全児童のハード面の整備することを要望していきます。



---

---

## 金子 てるよし

アクティ小日台は「放課後全児童向け事業」として開設され、小日向台町小学校の全児童 351 人中、280 人（78%）が登録しており、放課後の居場所・遊び場所の一つとしての期待がうかがえる。事業を実行委員会から受託するベネッセスタイルケアがスタッフ 7 名を確保して連日運営しているが、図書室での工作教室は、児童館職員が「出張」する工作教室であり、かつ、アクティ小日台と児童館の「共催」の工作教室との説明もあった。「出張中」は児童館内の職員が不在になることなど、「一体的運営」が人員体制のひずみを生じさせているのであれば、人的体制の補強が必要だと感じた。

小学校と隣接する児童館内で運営されている育成室の児童は、1 回あたり 20～25 人が週 4 日間（月曜日除く）、4 時～4 時 40 分までアクティの遊びに参加している。「アクティ」と育成室の子どもの放課後の生活スケジュールが交錯するが、本来、自由であるはずの放課後の過ごし方が「スケジュール」で縛られないかとの懸念を感じた。

---

---

## 松下 純子

小日向台小学校で行われている、文京区初の放課後全児童向け事業外部委託ということで、興味深く視察をした。小学校との連携も十分にとられており、児童の登録数（特別支援児童は全員）も多く、日々の運営に様々な工夫（帰宅時間が一目で分かるようなランドセルの色分け配置、遊びだけではなく宿題や学習への配慮）が見られた。気になったところは、作品作りの材料が一部持ち込む形式であったことである。やむを得ない部分もあるが、全ての児童が参加したいことに参加できる仕組みの方が良いのではないかと疑問が残る。

今後は地域の方々の運営校との学校格差、地域格差が出ないように、運営側の交流や情報交換、区の配慮が期待される。地域で運営するのか、外部の委託運営にするのかをその時の校長先生の考えや地域に委ねるだけではなく、区（教育委員会）としての方向性を示していく必要があるだろう。視察の反省点としては、数か所の放課後全児童向け事業を同時に委員会として視察できたら、課題や方向性がより見えたのではないかと思われた。

---

---

## 名 取 頭 一

子ども・子育て支援調査特別委員会委員として、小日向台町小学校で行われている放課後全児童向け事業・アクティ小日台を視察させていただきました。同一敷地内に幼稚園・児童館がある環境の中で、どうすみ分けして、この事業が行われているか興味がありましたが、出欠の確認、ランドセル置場等の工夫がされており、個々の児童に目が向くようになっていることに感心させられました。部屋遊びの児童と校庭遊びの児童もそれぞれ担当の目が行き届いており、子どもたちが伸び伸びとそれぞれ自分の好きなことをして、学校という安全な場所で過ごせることが大切であると改めて実感させられました。

区内で同様の事業を実施している学校には、地元の有志が運営主体になっているものと、ここ小日向台町小学校の様に業者に委託しているものがありますが、それぞれの長所、短所をしっかりと精査していきながら、今後の他校への普及を考える時の参考にできたらと感じました。